

今週の為替相場見通し(2023年3月27日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		129.65 ~ 133.00	130.74	129.00 ~ 132.50
ユーロ	(ドル)		1.0632 ~ 1.0930	1.0762	1.0700 ~ 1.0950
(1ユーロ=)	(円)		138.85 ~ 143.58	140.71	139.00 ~ 143.50
英ポンド	(ドル)		1.2169 ~ 1.2341	1.2229	1.2000 ~ 1.2400
(1英ポンド=)	(円)	*	158.27 ~ 163.34	159.89	156.00 ~ 162.00
豪ドル	(ドル)		0.6625 ~ 0.6759	0.6643	0.6540 ~ 0.6770
(1豪ドル=)	(円)	*	86.06 ~ 89.33	86.86	89.80 ~ 93.30

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

金融市場部 グローバルFIチーム 大橋 開

(1)今週の予想レンジ: 129.00 ~ 132.50 円

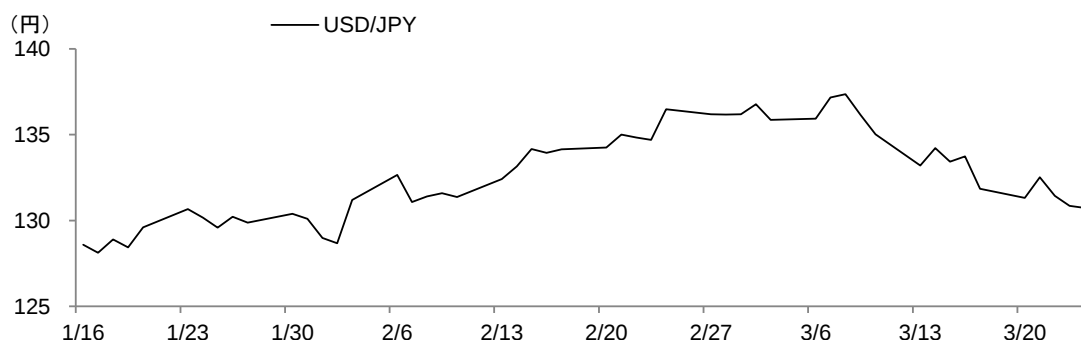
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は、下落。まず、20日は132.37円でオープン。スイスの大手銀行買収合意報道や五・十日の実需のドル買いもあり、上昇するも勢いは続かず。金融システム信用不安のリスクオフの流れから一時130.55円まで下落。次の日から開催されるFOMCを控え、円買いが一服するとじり高で推移し、131円台半ばまで上昇。21日、日本祝日の中、ロンドン時間近辺から金利上昇の動きに追従する形で132円台半ばまで上昇。その後も、米2月中古住宅販売件数が予想を大きく上回ったことで小幅に続伸した。22日、堅調な英2月消費者物価指数の結果から欧米金利が上昇する流れにクロス円が上昇。ドル/円もこの流れに追従し週高値となる133円ちょうどまで上値を追いかけた。FOMCでは、市場予想通り+25bp利上げ実施。ハト派利上げとの解釈にドル売り、株高で反応する中、イエレン・米財務長官から”預金保険の適用範囲、大幅な拡大は検討せず”との発言が出ると、銀行株主導で米株が大きく下落、ドル/円も131円ちょうどまで下落幅を拡大させた。23日、前日のFOMCの結果を受けた米金利低下とともに、ドル売り・円買いの動きが強まり、海外時間に2月10日以来約1か月半ぶりの水準となる130.32円まで下落。24日、米国金融システム不安が欧州にも波及するとの思惑から、欧州銀行株が下落・金利低下から週安値となる129.65円まで続落。NY時間以降は、米株のショートカバーから上昇、130.74円まで上昇し越週した。

今週のドル/円相場は揉み合う展開を想定する。まず金利低下要因として一つに、先週のFOMCである。インフレ退治と金融システム支援のどちらに舵を切るのか注目されていた中、+25bpの利上げを実施。ただし、今回の金融システムのショックによる影響から政策金利パスの見通しが変わった、と言及するなど、短期的な利上げ姿勢が後退したことが伺えた。二つに、23日に公表された米国連邦準備制度の統計結果である。3月15日~22日の間に中銀/政府系機関が60bn分(約20年間で過去に類のない巨額な金額)のドルをレポで調達していたことが明らかになった。今後の金融システム不安関連のヘッドラインに警戒する向きが入りやすく、金利低下・ドル売りの流れに繋がりがやすいと考える。一方で、金利上昇要因としては、やりすぎ感による戻し(金利上昇・ドル買い)の動きである。一つに、米OIS FWD Swap 4年先1年は、約2.75%まで低下しておりFED Longer run中央値の2.50%が視野に入ってきている。二つに、年内の利上げ織り込みはほぼ全て剥落し、ピーク(5月4.87%)から12月の3.91%まで約▲95bpの利下げを織り込んでおり、更なる加速には追加材料が必要かと考える。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(3/20~3/24)の値動き: 安値 129.65 円 高値 133.00 円 終値 130.74 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

市場営業部 為替営業第二チーム 小野崎 順基

(1) 今週の予想レンジ: 1.0700 ~ 1.0950 139.00 ~ 143.50 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は、欧州金融市場のリスク心理が改善し、ドイツをはじめ域内金利上昇とともに値を上げた。週初20日、1.0681でオープンするとスイス銀行大手の買収報道を受けて金融システム不安が後退し域内金利が上昇すると1.07台前半をつけた。21日は前日の流れそのままに、独金利上昇とともに1.07台後半に続伸した。22日は1.07台後半でじり高推移。FOMC後には、パウエルFRB議長の会見がハト派と解釈され、米金利低下とともに一時2月初旬以来となる1.09台に急伸。引けにかけてはドル売りが一服し1.08台後半に値を戻した。23日はドル売りが継続する中、一時週高値となる1.0930まで上値を追いかけた。NY時間には、リスクオフの円買いを受け、ユーロ/円の下落が波及し1.08台前半に反落した。24日には欧州銀行の経営不安を背景に欧州株が下落する流れにユーロ売りが優勢、1.07台前半に下落した。その後も上値重く1.0762で越週した。

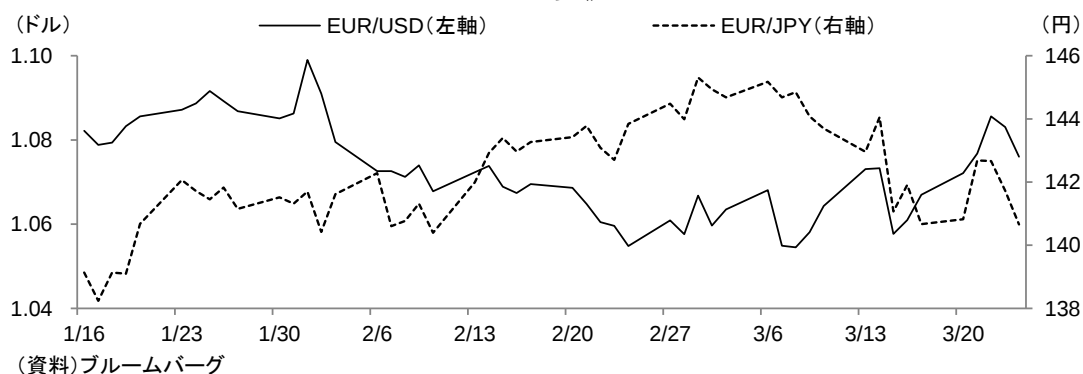
今週のユーロ/ドル相場は欧州金融機関への不安はあるものの、底堅い展開を予想。今月のFOMCにて今後のFRBによる利上げ継続期待が後退する一方、ECBの利上げ期待は根強い。中銀動向の相場への影響が強い中でこの点はユーロを後押しするだろう。ラガルドECB総裁からは今後の利上げ継続へのコメントは避けられたものの、独連銀総裁やオランダ中銀総裁からは今後も利上げに対する積極的な姿勢が示されている。いずれもデータ次第とのことから30日(木)の独、31日(金)にはユーロ圏の3月消費者物価指数(速報)には注目が必要となる。ユーロ圏消費者物価指数について前回2月の結果(確報)は+8.5%(前年比、以下同様)と4ヶ月連続で伸びが鈍化した。一方で、エネルギー、食料品、アルコール、タバコを除いたコアベースでは+5.6%と再び過去最高を更新しており、騰勢を維持。3月ECB政策理事会のスタッフ経済見通しにおいても、本年のコアベースのインフレ見通しが上方修正されるなど、米国同様インフレの警戒感強い状況である。かかる中、経済指標に振らされる展開が想定されることから各経済指標には注視したい。

(3) 先週までの相場の推移

先週(3/20~3/24)の値動き:

(対ドル) 安値 1.0632 高値 1.0930 終値 1.0762

(対円) 安値 138.85 高値 143.58 終値 140.71



3. 英ポンド

欧州資金部 天沼 幹

(1) 今週の予想レンジ: 1.2000 ~ 1.2400 156.00 ~ 162.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、FRBの利上げ期待後退により一時上昇基調で推移したものの、終始金融システム不安による影響を受け、結局リスクオフでドルが買われ同水準で引けた。週初20日は、スイス大手銀の買収にかかるAT1債の無価値化による動揺からリスクオフによる下落で1.21台後半でオープンしたものの、買収の進展や主要国中銀によるドルスワップ協定関連の報道が安心材料となり、ポンド/ドルも1.22台後半まで回復。翌21日は、欧州当局が金融システムの安定性を強調したほか、独金利の上昇も背景にユーロ全面高で推移。一方でイエレン・米財務長官による預金保護を撤回する発言によりドルが優勢となり、ポンドは対ユーロ、対ドルの両方で売られ一時1.22を割り込んだ。22日は英2月消費者物価指数(CPI)が予想を上回り、翌日のBOE金融政策決定会合での+25bp利上げの蓋然性が高まり、ポンド/ドルは一時1.23台まで上昇。23日はBOEによる利上げが予想通り+25bpで発表され、一時上下するも織り込み済みで結局1.22台後半で翌日に渡った。24日は再度欧州銀行株が下落しリスクオフとなり、ポンドドルも1.22台前半まで下落し週末を迎えた。

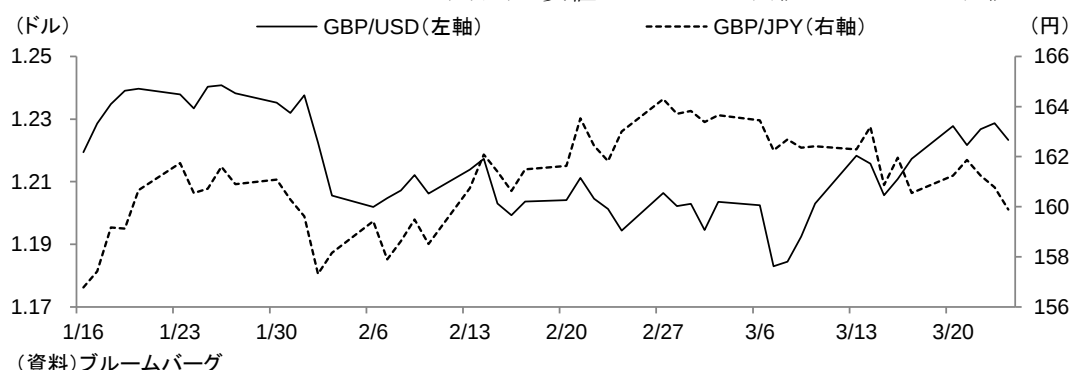
今週の英ポンド相場は金融セクターの動向に左右される不透明感の強い展開を見込む。先週のFOMCでは金融セクターの影響を受けてハト派傾斜が確認され、5月以降の利上げ停止もしくは利下げ期待が高まったことからドルの上値は基本的に重い。パウエルFRB議長は、信用状況の切迫が利上げの代わりになると発言をしており、米金融システムの不安が高まるほど利上げ期待は遠のき、ドル安に転じやすいと考える。経済指標では31日(金)発表の米2月コア個人消費支出デフレーターが注目され、仮に金融不安が沈静化しているならば、利上げ期待の再熱でドル高圧力となりやすい。ユーロ圏では同じく31日発表のユーロ圏3月消費者物価指数(速報)が注目。ポンドは上振れした英2月CPIを背景に+25bpの利上げを経て、BOEは4~6月期のGDP成長率予想を小幅プラスに上方修正している。本来的にはポンドが買われやすい状況だが、欧州金融システムへの不安が再熱しており、週末にかけて銀行株は下落、独大手銀は一時▲15%程度的大幅安となった。引き続き銀行株の下落が続く場合にはポンド/ドルも続落を想定し、逆に欧州金融不安が沈静化するならば、利下げ期待が高まっている対ドルで上値を試す展開が予想される。

(3) 先週までの相場の推移

先週(3/20~3/24)の値動き:

(対ドル) 安値 1.2169 高値 1.2341 終値 1.2229

(対円) 安値 158.27 高値 163.34 終値 159.89



4. 豪ドル

アジア・オセアニア資金部 川口 志保

(1) 今週の予想レンジ: 0.6540 ~ 0.6770 89.80 ~ 93.30 円

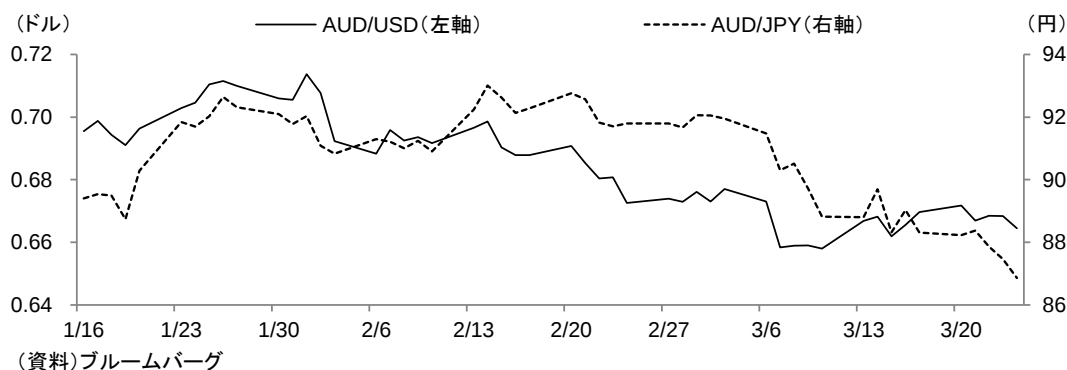
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は月曜から木曜まで0.6650から0.6759のレンジで推移したものの、金曜は欧州中心に銀行セクターへの不安が再燃し、0.6625まで下げ幅を拡大した。20日はスイス最大手銀行によるスイス大手銀行買収報道や主要中央銀行によるドルスワップ協定を通じた流動性供給合意を受けて、リスクセンチメントが改善し、0.67台前半を中心にもみあい。21日は0.6720近辺から0.66半ばまで下げ幅を拡大した後、銀行セクター混乱の收拾が図られVIX(恐怖指数)が下落すると、0.6670近辺まで上昇した。特段の値動きはなかったもののRBA議事録要旨(3月会合分)では「委員会メンバーは利上げを停止すれば経済見通しを再検討する時間的余裕ができるとして、4月会合で利上げ停止の論拠を再検討する事で合意した。停止時期はデータと経済見通し次第」とした。22日はNY時間にかけて0.66台後半を中心に推移し、FOMCでは市場予想通り+25bp利上げされたが、直近の金融セクターの混乱を受けて声明文の文言が変更され、また利上げ停止の選択肢も残したため、米金利低下を背景に米ドル売りとなり、0.6759まで上昇した。その後イエレン・米財務長官が預金保険の提供を規制当局が検討している事はないと述べると金融株を中心に米株が大きく下げ、豪ドルも0.66台後半へ反落した。23日は日中高値0.6756まで一時上昇もその後は下落に転じほぼ往って来いとなった。前日のFOMC声明文で利上げ停止への期待が高まり、米短期債利回りが大きく低下して米ドル売りとなると豪ドルは上昇した。その後イエレン財務長官が公聴会で「正当化される場合、当局には預金保護で追加措置を講じる用意がある」と述べたものの銀行株が引き続き売られると、豪ドルも0.66台後半へ下落した。24日は0.6680でスタート後0.6694まで上昇するが、ロンドン時間に独銀行の経営不安に関する報道で金融セクター混乱の不安が再燃し、銀行株が次々下落すると、リスクオフの動きから0.6625まで下落。その後、0.6643で越週した。

今週の豪ドル相場は軟調推移を予想。28日(火)に豪2月小売売上高、RBA Head of payments policyのコプリー氏がAFR Banking Summitでスピーチする他、29日(水)に豪2月消費者物価指数(CPI)、31日(金)に中国3月製造業/非製造業PMI、米2月個人所得/支出、米2月コア個人消費支出デフレーター、米3月ミシガン大学消費者マインド(確報)等が発表予定。豪2月CPIに関しては、1月の+7.4%から緩和するとみられており、インフレのスローダウンが見られればRBAの利上げ停止観測浮上で一旦は豪ドル売りに振れる可能性がある。但し、価格上昇ペースが未だ高水準に留まっている為、更にインフレターゲットにCPIが下落するまでRBAが金融引き締めを行う可能性もある。RBAが実際にどのような指針に辿りつくかはCPI後の高官コメントや更なるデータを探りたい。3月RBA会合後に世界金融市場を揺るがす銀行セクターの問題が生じ、外部環境は幾分変わってしまったが、RBAが不確実性要素を注視する姿勢は変わらないとみる。現在、豪短期市場での4月会合での利下げ折込度は▲2bpとなっており、金利据え置きの可能性が高いが、今年8月までには▲25bpの利下げを織り込んでいる。

(3) 先週までの相場の推移

先週(3/20~3/24)の値動き: (対ドル) 安値 0.6625 高値 0.6759 終値 0.6643
(対円) 安値 86.06 高値 89.33 終値 86.86



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。